

【松伏町】 校務DX計画

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本町において、次に掲げる事項を重点的に推進します。

1 ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

松伏町では現在、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と、児童生徒・教職員が教育活動で利用する「学習系」の2つに分離する構成としています。

今後は、教職員の働き方改革と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じたうえで、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進めます。

(2) 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムは、オンプレミス型で運用しており、教務・保健・学籍・成績管理など幅広い業務で利用しています。

教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、次期更新時（小学校については令和12年8月末、中学校については令和7年8月末）のクラウド化を目指し、学校現場の教員と情報共有しながら、仕様の作成及びシステム的设计、調達事務等を進めていきます。

2 FAX及び押印の見直し

松伏町では、教職員1人1人にメールアドレスを付与しているため、基本的に学校間や教育委員会等の外部との連絡には、電子メールを活用しています。

一方で、訃報連絡や学校運営の支障報告などは、現在もFAXを使用しています。

今後は、緊急連絡やネットワークの不具合など、電子メールよりもFAXの方が効果的な場合など一部を除き、電子メールや校務系ネットワーク上での連絡の可否を検討し、見直しに向け検討を進めます。

押印につきましては、令和4年度以降、原則廃止しています。しかし、慣行的に押印されている書類等が散見することがある状況です。

今後も、押印の必要性の検討や見直し及び廃止に向けて取り組むとともに、押印廃止の周知徹底を進めていきます。

3 ペーパーレス化の推進

現在、松伏町では校内の会議等で使用する資料や各種マニュアル等については、グループウェアや共有フォルダで共有するなどペーパーレス化に取り組んできました。

また、ドキュメントハンドリングソフトウェアを導入し、併せて電子決裁の運用も開始いたしました。

今後は、学校間をまたぐ資料等のやりとりにおいても、指導者用・学習者用端末及びクラウドサービスを活用し、より一層ペーパーレス化を進めていきます。

4 その他

各学校では、児童生徒への学習用端末導入後、学習eポータル、オンラインAIドリルを活用しながら授業を実施しています。また、令和4年度以降は中学校にPBT自動採点システムも導入し、教職員の負担軽減を図る取り組みを進めています。

また、生成AIの活用については、生成AIの利用に関するガイドラインやメリットとデメリットについて調査研究し、校務及び教育活動への導入について検討を進めていきます。